

平成29年度事業報告

1. 平成29年度、理事会及び評議員会の開催について

(1) 第87回理事会

- 日時 平成29年5月16日(木) 午前10時30分～
- 会場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- 議案
第1号議案 役員人事について
第2号議案 平成28年度事業報告について
第3号議案 平成28年度決算について
第4号議案 定時評議員会の招集について
報告事項 今後50年のあり方について
その他

上記4案が審議され、承認された。

(2) 第77回評議員会

- 日時 平成29年5月30日(火) 午後10時30分～
- 会場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- 議案
第1号議案 役員人事について
第2号議案 平成28年度事業報告について
第3号議案 平成28年度決算について
報告事項 今後50年のあり方について
その他

上記2案が審議され、承認された。

(3) 第88回理事会

- 日時 平成29年5月30日(火) 午後1時30分～
- 会場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- 議案
第1号議案 理事長の選定について

第2号議案 業務執行理事の選定について

上記2案が審議され、承認された。

(4) 第89回理事会

- ・ 日 時 平成29年11月27日（月）午前10時30分～
- ・ 会 場 こどもの国 2階会議室
- ・ 議 案
報告事項 平成29年度上半期事業報告
就業規則の一部改正について
その他

平成29年度上半期分の事業報告を行った。

(5) 第90回理事会

- ・ 日 時 平成30年3月26日（月）午後1時30分～
- ・ 会 場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- ・ 議 案
第1号議案 平成30年度事業計画（案）
第2号議案 平成30年度予算（案）
第3号議案 評議員選任解任委員会の開催について
報告事項 運営協議会の設置について
その他

上記3案が審議され、承認された。

2. 入園者の動向

(1) 年間入園者

平成29年度の有料入園者数の状況は、各月においては天候などの影響により前年比1万人以上の減となった月や入園者数が過去最高となった月があるなど大幅減、大幅増を繰り返し、目標とした90万人には届かなかったが、年間を通してみると過去5年間の平均入園者数を2万4千人上回る入園者となった。

また、具体的な年間有料入園者数については、869,729人と前年比で10,873人少なかったものの、過去20年間においては、一昨年、昨年に続いて3番目に多い入園者数となっている。

(2) 半期ごとの状況

上半期をみると、4月から7月にかけては雨天が少なく好調であった。

また、7月下旬から9月上旬にかけては40年ぶりの記録的な長雨となったものの48万2千人と前年比2千人の増となった。

下半期については、10月が台風等による長雨の影響で過去最低の入園者数でのスタートとなったが、年明けの2月中旬から3月にかけて開催された平昌(ピョンチャン)冬季オリンピック大会の影響もあってスケート入場者数が昨年比6千6百人の増となっている。

さらに、3月に入ってから、桜の開花が平年より早く、開花後も記録的な晴天続きで入園者数が大幅に伸び、3月としては過去最高の9万4千人を記録するなど、過去20年間の下半期では昨年に次ぐ38万7千人の入園者数を記録した。

3. 広報・PR活動の強化等

(1) 広報・PR活動の強化

- ① 東急や小田急電鉄グループなど企業と連携する出張ワークショップとして駅構内やデパートなどに出向き、かざぐるまの工作を楽しんでもらうとともにPRパンフレット及びこども無料招待券をプレゼントする「出前こどもの国」を26回開催した。

また、新規出店場所として「東急たまプラーザテラス」を加えたほか、町田市の「ウインターフェスティバル」にも初出店を行った。

- ② 関係企業が行うイベントへの積極的なタイアップや、企業の福利厚生に「こども招待券」を活用してもらう等、相互にメリットのある関係構築に努めた。

また、1月には朝日新聞社との共催で、陸上100m桐生祥秀選手による「かけっこ教室」を開催、その模様が多くのメディアに取り上げられる等、こどもの国の認知度を高めるイベントとなった。

- ③ 近隣の新聞販売店と連携し、その顧客への折り込みを行うなど、広報強化に努めた。

(2) デジタルツールの強化

こどもの国のホームページの更新頻度を高め、内容の充実を図ったほか、スマホのツイッターを軸にしてSNSの投稿頻度を高め、タイムリーな情

報発信に努めた。

(3) こどもの国ニュースの発行

広報紙「こどもの国ニュース」を、タブロイド版カラー4ページで印刷し、学校が夏休みの8月以外の毎月（年11回）発行した。

また、ニュースの紙面において、新たに「こどもの国を応援します」欄を設け、協力団体等の紹介にも努めているところである。

なお、各号については、4万7千～9千部を印刷し、うち3万7千部は、教育委員会・教育事務所を通じて全国の小中学校に配布、図書館や官庁、マスコミ、企業などにも送付している。

4. 地域との連携強化

(1) 地域との交流の推進

① 近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、園内のプール及びスケート場の無料開放を行った。

② 地元青葉区の広報紙「AOBA」において、こどもの国の告知枠が拡大されたことで、イベント情報のみならず、今月の見どころも紹介されることとなった。

③ 11月3日に青葉区役所で開催された「青葉区民まつり」に、こどもの国として、「かざぐるま工作のワークショップ」を出店したほか、こどもの国で採れた銀杏の販売を行った。

また、秋の青葉区民デーの一環として、昨年と同様、子どもたちの無料入園を実施した。

④ 青葉区、桐蔭横浜大学と連携し、昨年、作成したベビーカーマップに続き、シニアをターゲットにした散策マップを発行した。

また、シニアマップ作成の参考資料とするため、同大学と協力して、65歳以上の入園者に対するアンケート調査を実施した。

⑤ 鉄道会社など企業や警察、消防などの公的機関及び地域団体等との連携により、園内において「110番の日」や「防災フェア」のイベントを開催した。

また、パトカーや白バイ、消防車や路線バスなど、子どもたちの関心を引く車両の展示や防災体験なども実施した。

(2) 職場体験学習の生徒・学生の受け入れ

総合的学習・進路学習に寄与するため、地元の中学・高校が実施する職

場体験学習の生徒を積極的に受け入れた。

また、地元小学校の生活活動の一環として、竹林整備と中央広場の花壇へのチューリップの植栽を実施した。

(3) 第33回全国都市緑化よこはまフェアとの連携について

都市緑化意識の向上や都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として、昭和58年から全国主要都市の持ち回りで開催されている「全国都市緑化フェア」が平成29年3月25日（土）から6月4日（日）まで横浜市において開催された。

自然に恵まれた「こどもの国」では、緑化フェアの一環として「フラワーネックレス青葉2017」を開催した青葉区役所と連携し、美しい横浜を表現するための色とりどりの花壇を園内各所に設置したほか、横浜美大等との連携による「花と緑の写生教室」をはじめ、「フラワースタンプラリー・草原のゲル（モンゴルの住居）に集まれ」、「ベビーカーマップの作成」などの各種イベント等を実施した。

5. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」（昭和55年法律第19号）第1条第3項に掲げる事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行った。

(1) 自然をコンセプトに来園促進

子どもたちに、自然に触れ、親しんでもらうため、野草を探して摘んでもらい、天ぷらで食べる「春をてんぷらで味わおう」をはじめ、椎茸菌を植える「シイタケを育てよう」、こどもの国唯一の夜のイベントの「セミの羽化とカラスウリの花かんさつ会」や、「虫とりをしよう」、「セミの抜け殻調査」、「バッタを捕まえてみよう&飛ばし大会」、秋と冬には「虫さがしかんさつ会」、巣箱を外して野鳥が使用したかを観察する「巣箱はずし」、「冬の野鳥のかんさつ会」など、四季折々のイベントを実施した。

また、野鳥の観察に役立つ「冬の野鳥ガイド」を新規に制作した。

なお、「かんさつ会」は自然ボランティアの協力により実施している。

(2) 自然と親しむ

- ① 「カブトムシの幼虫をさがそう」や「ザリガニ釣り大会」、「セミ取り名人」、ジंगाサハムシを見つける「黄金の虫を探そう」など自然体験を

通して、子どもたちの自然との触れ合いの機会を充実させた。

- ② 中高年の方が平日に自然の中を歩くノルディックウォーキングは、月1回のペースで継続して実施した。
- ③ こどもの国の自然を紹介する「ビジターセンター（土曜、日曜、祝日のみ開館）」において、こどもの国の生き物などの展示を充実し、より一層自然を感じてもらえるようにした。
また、ハビなどにエサを与えるところを観察する「エサの時間」を開始した。

（3）自主イベントの安定開催と強化

さくらまつり（3月30日～4月2日）、こどもまつり「ゆめゆめシティ」（11月26日）、梅まつり（平成30年2月17～18日、24～25日の土・日曜日）、ツバキまつり（平成30年3月17～18日）を実施した。
また、顧客満足度を高めるため、「七夕そうめん流し」や「野外でバームクーヘンをつくろう」、「マキでピザを焼こう」、ダッチオープン料理などの食に関するイベントを開催した。

（4）教育関係団体等の協力を得て行う事業の実施

① こどもの国吹奏楽コンテスト・青空コンサート

第36回を迎える吹奏楽コンテストについて、東京都、神奈川県の小中学校から26校の吹奏楽部が参加し、10月22日に開催する予定であったが、台風の影響による大雨のため、中止となった。

また、吹奏楽コンテストに合わせて予定していた「秋の青空コンサート」も中止となった。

このほか、近隣の中学校の吹奏楽部が参加して中央広場で演奏を披露する「春の青空コンサート」についても、5月13日が雨で中止となり、5月14日の1日のみの開催となっている。

② こどもの国サッカー大会

第36回となる大会を11月11～12日、18日の3日間で開催、東京都、神奈川県近隣6市から選抜された小学低学年から高学年までの各12チームが参加したほか、少女の部には6チームが参加した。

（5）助成や協賛等による事業の実施

企業の助成を受けて実施するイベント

① 春まつり、秋まつり

朝日新聞社との共催により、春（5月3日～5日）と、秋（10月7

日～9日)の行楽シーズンに、子どもたちが楽しめる多彩なイベントを開催した。

② 牛乳まつり、牧場まつり

雪印メグミルク主催による牛乳まつり(5月28日)、雪印メグミルクの助成で開催する牧場まつり(11月4～5日)において、バターづくり教室など、牧場ならではのイベントを開催した。

③ ジャンボかるたとり、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成で、正月行事のジャンボカルタとり大会(平成30年1月2～3日)と、どんど焼き(平成30年1月13日)を実施したほか、どんど焼きの終了後には、焼きたての焼き芋を、子どもたち300人に振る舞った。

④ サンマを炭火で食べる会

宮城県の女川漁港、気仙沼漁港からサンマ3,300匹の無償提供をはじめ、天塩、コカ・コーライーストジャパン、サントリービバレッジ、ミツカンの協賛、東京燃料林産の協力により、9月23～24日の2日間に渡り開催した。

参加人数は2日間で計2,801人(応募人数は約4,500人)となり、売上金及び募金を両港に復興支援として寄付した。

⑤ 神奈川県児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会

資生堂社会福祉事業財団の一部助成により、11月11日に神奈川県内の児童福祉施設の子どもたちが参加する「児童福祉施設駅伝大会」及び「児童福祉施設女子駅伝大会」のほか、平成30年1月13日に神奈川県内の児童福祉施設の子どもたちや職員が参加する「養護施設卒業生送別マラソン」を開催した。

⑥ こどもの国春・秋のフォトコンテスト

雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、ベルマーク教育助成財団が後援し、こどもの国の自然と家族をテーマに作品を募集、春は118点、秋は156点の応募があった。

秋は、フォトコンテストと合わせてキャノンマーケティングジャパンの協賛による写真教室も開催した。

(6) 既存事業内容の充実

① プールの運営状況

営業期間は、7月15日(土)～9月3日(日)の45日間で、有料入場者数は64,911人であった。

なお、夏休み後半の冷夏や長雨の影響などもあり、入場者数は前年度

比9, 468人の減となった。

③ スケートの運営状況

営業期間は、12月16日から平成30年2月25日の61日間で、有料入場者数は56,715人であった。

スケートについては、氷点下の日が続く中、平昌（ピョンチャン）冬季オリンピック大会における日本選手の活躍などもあり、前年度比2,958人の増となっている。

また、スケート事業においては、早朝スケート教室、学校団体スケート教室などの開催により、子どもたちの学びの場を拡充し、教育、健全育成への寄与拡大を図っているところである。

(7) 自然の中での学習と遊びの場の提供

豊かな自然を活用した各種の催事・事業を進め、学校教育では得がたい学びの場、自然とのふれあいの場、遊びの場、親子の絆づくりの場を提供した。

また、みどりのボランティアの協力によりボランティア畑で各種農業体験イベントとして「家族でジャガイモ掘り」や「家族でサツマイモ掘り」、「枝豆の収穫」などを実施した。

「カブトムシの幼虫を育てよう」について、も同ボランティアの協力により、子どもたちが幼虫を掘って探し、オス・メスの判別を行った。

(8) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施

豊かな自然を維持するとともに、入園者の安全を確保するため、必要に応じ、樹木の剪定、危険木の伐採、植樹などを行った。

(9) センターとしての指導的役割

全国に設置されている「地方こどもの国」等の関係施設を対象にした情報交換等を行うこと等により、児童厚生施設の中核的施設としての役割を果たしていくための取り組みを行った。

6. 今後50年のあり方について

(1) 報告結果に基づく取り組みの推進

こどもの国が、この先の50年も引き続き、変わらぬ緑豊かな自然を活用しながら、地域に開かれた児童厚生施設として、さらに大きな役割を果たしていくことを目的として、「こどもの国の今後50年のあり方」について、園内に検討会を設置、様々な観点から検討を行い、平成29年4月に経営の安定

に資するための報告書を取りまとめた。

その報告結果を踏まえながら、必要な取り組みを推進してきており、引き続き、経営の安定に努めていくこととしている。

(2) 運営協議会の設置

29年3月の社会福祉法の改正に伴い、これまで諮問機関であった評議員会について、「法人の運営に係る重要事項の議決機関」とされたことから、評議員会に代わり、地域や利用者の意見を聴取する機関として、30年2月に「運営協議会」を設置、3月9日に第1回を開催した。

7. その他

平成23年3月11日の大震災以降、こどもの国は被災者に対し、入園料金、プール及びスケートの利用料金を無料としている。

また、被災者支援を行うNPO法人などの団体に対しても、可能な限り協力を行った。

以上